

機関番号:43934

研究種目:基盤研究(C)

研究期間:2008 ~ 2010

課題番号:20530898

研究課題名(和文)障がいを理解するための絵本制作とインクルーシブ教育

研究課題名(英文) Making a Picture Book to Promote Understanding of Children with Disabilities and Inclusive Education

研究代表者

平林 あゆ子 (HIRABAYASHI AYUKO)

名古屋女子大学短期大学部 教授

研究者番号 : 20340226

研究成果の概要(和文):障がいを理解するための絵本を制作し、子ども達が共に育ちあうインクルーシブ保育・教育に効果的に役立てるために効果測定をした。教育・保育の場における読みきかせにより、障がいの気づきと相互理解のヒント、特に保護者の障がいに対する理解が進み、親同士の歩み寄りができたという実態が明らかになった。これら絵本の市販の要望があり、絵本3冊と「かいせつと利用の手引」を2011年2月に風間書房より出版し応えた。また、幼児教育・保育に関わる学生や幼児用の「障がいを理解するための教育プログラム」を作成しインクルーシブ教育に役立たせた。

研究成果の概要(英文):The author made picture books to promote a wider understanding of children with disabilities. The author measured how effective these books could be in promoting inclusive education. The author read the picture books aloud to children in nurseries, after which the author interviewed them to assess how they understood the story. The results indicated that the picture books encouraged children to take an interest in other children who differed from themselves, especially they promoted parents' understanding each other. Some people were eager to publish them. So a set of 3 picture books with a manual was published by Kazama Publishing on February in 2011.

The author created an educational program for students in Early Child Education courses and early children to understand the meaning of disabilities and differences. Children notice differences, know disabilities and will understand the essence of inclusion

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野:障がい児保育・教育 特別支援教育

科研費の分科・細目:特別支援教育

キーワード:障がいの理解 絵本 インクルーシブ教育 人間理解 障がい理解の基本概念

1. 研究開始当初の背景

|

(1)教育界では特別支援教育の取り組みが2007年4月より開始され、インクルージョン（障がいの有無で区別するのではなく、個々の必要に応じた教育支援が受けられる制度）が進められつつあった。保育所、幼稚園、地域の学童クラブ等においても、「共に生きる」というインクルーシブ教育の理念や園への障がい児加配（障がい児の人数により保育士等を園にプラス配置）等の施策とも相まって、障がいのある子どもと健常児との接点が増加しつつあった。こうした状況において、障がい児と健常児相互の理解の工夫が切に求められていた。

そして、幼児教育・保育の現場においても、保育者自らが「障がい」について十分理解し、支援していくことができる力量が問われているのは現在も変わらぬ状況である。

(2)そこで、主として「絵本」により、「障がい」理解を推進できないかと考え、研究を進めてきた。絵本は、大人にとっても子どもにとっても身近で親しみやすく、ともすると難しく重いテーマとなりがちな「障がい」についてやさしく、分かりやすい方法と思われるからである。

(3)障がいをテーマとした市販の絵本は、福祉教育など心のバリアフリーに関連してやや増加の傾向にあるとはいえ、全体の絵本の割合では少数で未だ限られている。また、幼児が理解できる適当なものがほとんど見られない。

(4)試作した「絵本」を読んだ障がい児の保護者らの意見として、「周囲の理解、同世代の友だち、地域の理解、ひいては社会の理解に繋がるツールとなる」ので普及して欲しいという要望が高かった。

2. 研究の目的

本研究の目的は障がいを理解するための絵本（以後「絵本」と記す）を制作し

(1)子どもたちのインクルーシブ保育・教育に効果的に役立てること。

(2)障がい理解の本質的な意味について、幼児や関係者のみでなく、一般の人々にも理解してもらうことである。

3. 研究の方法

(1)「絵本」の制作は、幼児教育を志望する学生、現役の保育者、障がい児の保護者らと共に行った。

(2)障がいを理解するための絵本（以後「絵本」と記す）のテーマの枠を広げていき、人間の理解に近づく絵本の制作を行った。

(3)インクルーシブ保育・教育に効果的に役立てるために、制作した「絵本」を協力園(保育所・幼稚園)や専門家に対して質問紙、描画、インタビューにより効果測定した。また、協力園(保育所・幼稚園)での子どもや保護者の「絵本」による変容を質問紙による定期的な報告を得て、「絵本」の利用の仕方や適切な利用の方法など実践方法を探求した。

(4)色々なジャンルの絵本を収集し、目的と、実用に適したものをリスト化する。

(5)障がいの理解を入り口とする人間性の成長過程について「絵本」による障がい理解の基本概念(幼児期)の仮説を制作した。障がい理解の本質や意義について、「絵本」制作の

実践や研究による知見に基づいて、系統的に整理し理念を概念図にしまとめた。そして制作した「絵本」を使用して幼児教育・保育の場で実践し仮説が現実にあったものか全体像を明らかにしようと試みた。

4. 研究成果

(1) 主に「絵本」を通して障がい理解と人間理解の深化を目指した実践の構造について「絵本による障がい理解の基本概念 幼児期」という仮説を考案し図式化した。そして制作した「絵本」(現在 20 冊)を使って幼児教育の場で実践した結果、基本概念の仮説は現実にあったものと確信を得た。

(2) 制作した「絵本」は以下のとおりである。

- ①「たいせつなあなたへ改訂版 (20 ページ) 2009」: ダウン症児をもつ保護者の気持ちの理解とダウン症についての解説付き、英語翻訳付き
- ②「3 ちょうめのゆうたくん (14 ページ) 2009」街で出会う障がいをもっている人への援助と理解
- ③「続・赤ずきんちゃん (28 ページ) 2009」認知症の理解、解説付き
- ④「そらいろのきりん (32 ページ) 2009」ちがいの理解
- ⑤「たいせつなあなたへ改訂版 (24 ページ) 2010」: ダウン症児をもつ保護者の気持ちの理解とダウン症についての解説付き、英語翻訳付き
- ⑥「ひとりぼっちのもにゃ (32 ページ) 2010」: ちがいの理解、解説付き
- ⑦「しょうがいって なあに? (36 ページ) 2010」: 色々な障がいの気づきと理解、その支えあい方のヒント
- ⑧「みっちゃんのいちにち (24 ページ) 2010」: ダウン症児の理解、解説付き

- ⑨「あつくんとおじいちゃん (28 ページ) 2010」: 認知症の理解、解説付き
- ⑩「あつくんとおじいちゃん改訂版 (28 ページ) 2011」: 認知症の理解と解説付き
- ⑪「かっちゃん (32 ページ) 2011」: 肢体不自由児の理解とその支えあい方のヒント、
- ⑫「続 たつくん (28 ページ) 2011」: 自閉症スペクトラム障がい児の理解と友情 解説付き

(3) 学生らと共に制作した絵本を学生に読みかかせながら障がいのある人への援助について興味と関心を持たせ、現場での幼児の障がい理解教育の方法の具体化に繋げた。

(4) 障がいに関する「絵本」を教育・保育の場における「絵本」の読みかかせにより、特に保護者の障がいに対する理解が進み、親同士の歩み寄りができたという実態が明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 平林あゆ子、障がいを理解するための「絵本」制作の試み(第 5 報) — 基本概念と「絵本」の効果および評価について—、名古屋女子大学紀要 人文・社会編、査読無、第 57 号、2011、pp.113-121
- ② 平林あゆ子、障がいを理解するための「絵本」制作の試み(第 4 報) — 「絵本」の読みかかせ効果と「絵本」の評価について—、名古屋女子大学紀要 人文・社会編、査読無、第 56 号、2010、pp.197-208
- ③ 平林あゆ子、障がいを理解するための「絵本」制作の試み(第 3 報) — 保育所における障がい児の実態について—、名古屋女

子大学紀要 人文・社会編、査読無、第
55号、2009、pp.329-248

〔学会発表〕(計5件)

平林あゆ子、障がいを理解するための「絵本」
制作の試み(第3報):「絵本」の効果測定と実
践方法の検討、日本保育学会第61回大会、
2008年5月17日、名古屋市立大学

平林あゆ子、障がいを理解するための「絵本」
制作の試み(第4報):保育所に在園する障が
い児の実態について、日本保育学会第62回
大会、2009年5月16日、千葉大学

平林あゆ子、障がいを理解するための「絵本」
の読みきかせ効果について、日本特殊教育学
会第47回大会、2009年9月20日、宇都宮
大学

平林あゆ子、障がいを理解するための「絵本」
制作の試み(第5報):「絵本」の読みきかせ
効果と「絵本」の評価について—日本保育学
会第63回大会、2010年5月17日、東雲女
子大学

平林あゆ子、障がいを理解するための「絵本
」の読みきかせ効果について(2)、日本特殊
教育学会第48回大会、2010年9月19日、長崎
大学

〔図書〕(計4件)

- ① 平林あゆ子、他、光生館、相談援助、2011、
134
- ② 平林あゆ子、風間書房、障がいを理解す
るための絵本、2011、80 (絵本3冊、
かいせつと利用の手引き)
- ③ 平林あゆ子、風間書房、低出生体重によ
る脳性まひ児の言語発達、2009、176
- ④ 平林あゆ子、他、保育出版、キーワード
で学ぶ障害児保育、2008、220

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計◇件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平林 あゆ子 (HIRABAYASHI AYUKO)
名古屋女子大学短期大学部・教授
研究者番号: 20340226

(2) 研究分担者 ()

研究者番号:

(3) 連携研究者 ()

研究者番号: